

A LITTLE SCHOOL WITH BIG DREAMS

“小さな学校 大きな人間づくり”

このうら

佐世保市立神浦小学校

校長室便り

No.75

平成26年3月7日(金)

文責：校長 園田 俊郎



学校教育目標：心やさしく 進んで学び たくましく生きる子どもの育成

通学路変更に伴って。

以前、学校便り No.72号でもお知らせしましたが、2月20日から子ども達の通学路を一部変更しました。

平成22年にできた新しい道路は左右に立派な歩道もあり、通学の距離も短くなるため、3年前から変更の要望が出ていたものです。

なぜ、今まで変更されていなかったのかということ、新しい道路にある神浦橋、飯良橋は道路の下の地面まで10数メートルの高さがあり、安全基準に沿った手すりはあるものの、それは車両用であり、子ども達の落下の危険性があった為です。(通学路は安全性が第一です。)2年ほど前、保護者の意向を受け、学校及び地元の方々との協議により、行政への働きかけが行われました。

その結果、25年度中に手すりの上に更に落下防止のフェンスが設置されることになっていました。要望申請からずいぶん月日が経ちましたが、昨年末、そのフェンスの取り付け工事が開始され、無事、設置工事が終了しました。それに伴い当初の予定通り、通学路変更(追加)を実施しました。

追加変更した通学路は、広く立派な歩道があり、路側帯よりも安全に歩くことができます。また、本飯良や飯良からは、距離も近くなり子ども達も喜んでいるようです。

様々な「思い」があることを知りました。

ここ数年間の懸念であった事が解決してよかったなあと思っていたところでしたが、先日、本校職員が地域の方から次のようなお話を聞いてきました。

「通学路が変わって、子どもが通らなくなり、とてもさみしい」と……。

きっとその方は、毎日、家のそばを通過して登下校する子ども達の声を聞いたり、姿を見かけたりすることやあいさつを交わすことを楽しみにしてくださっていたのですね。優しく声をかけてくださり、子ども達を元気づけたり、励ましてくださったりしたことも度々あったかもしれません。あるいは言葉を交わすことはなくても、「今日も元気に登校してるね」と、そっと見守ってくださっていたことでしょう。

今まで、何年もの間(もしかしたら何十年もの間)、子ども達が家のそばを通ることは、まるで無意識に呼吸をすることのように当たり前の日常だったのかもしれませんが。

通学路を変更したことで、子ども達の安全面ばかりが気になっていた私達。何年もかけて努力した要望が通り、喜んでくださっているだろうという気持ちになっていて、その一方で、このように、子ども達を思い「さみしい」と思ってしまう地域の方がいらっしゃることに考えが及んでいませんでした。

子ども達の元気な声や明るい笑顔、存在そのものは私たち大人にも大きな元気エネルギーを与えてくれます。今回のことで、私達が気づいていない様々な面で、子ども達は地域の方々にとっと包まれ、見守られていたんだなあということに改めて気づかされました。本当に幸せで、ありがたいことです。

